

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

教会委嘱牧師：竹田孝一

御言葉はあなたのごく近くにあり、あなたの口と心にあるのだから、それを行うことができる。 申命記30：14

あなたがたにまで伝えられたこの福音は、世界中至るところでそうであるように、あなたがたのところでも、神の恵みを聞いて真に悟った日から、実を結んで成長しています。

コロサイ1：6

ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、34 近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

ルカによる福音書10：33

【説教要旨】 建前に生きるのではなく

長く教会生活をしていると、教会が建前ということがよく使われて、人間関係を円滑にするには、大変に助かります。本音でいくと、しばしば人間関係がくずれ、現在の時代のようなとき、なかなか本音でいきません。現実には、建前が優先するのです。

私たちの世界は、矛盾と不条理に満ちていると思います。そのことを私たちが認めないと、こうあるべきだとか、本来こうなんだとかいう建前だけに生きて、円滑なことだけで動くなら、大切なものを見失っていく生き方しか出来なくなり、大切なことを忘れがちになります。特に私は長い牧師生活でつくづく感じます。ブラジル伝道、「日本人だけでなく、ブラジル人に伝道をしなくてはいけない」とその当時の執行部の方々に言われて、ブラジルに来ました。「ブラジル人とは」となると、ブラジルは他民族社会で、文化人類学者・斎藤広志が、「ブラジルは野菜サラダ文化社会」と言ったように、多くの他民族が互いに尊重しあいー

つの国家を作っています。日系人という野菜であり、野菜サラダの一つを構成しています。野菜サラダの一つである日系人も他の民族と違う、苦しい歴史を生き、ブラジル人だという誇りを持って生きている日系人のことを見失いがちになります。「日系人だけでなく、ブラジル人に伝道をしなくてははいけない」という建前論の伝道論通りにはいきません。

宗教人である律法学者に対して、イエスさまは、譬え話で、祭司とレビ人を登場させます。この人たちは、こうあるべきだとか、本来こうなんだとか、そういう建前に生きています。しかし、現実的には全然そうでないという事を見て来たとし、知っていたはずです。傷ついた旅人を見てはいたが、見ないふりをして通り過ぎて行くように。祭司とレビ人にしても彼らなり、こうあるべきだとか、本来は、こうなんだという建前があり、建前を盾として、傷ついた旅人をおいて通り過ぎていったのです。建前を生きているとそこに傷ついた人が見えていても見ないふりをして通り過ぎていくことこそ事がスムーズにいけたのです。

イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」 29しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。

「では、わたしの隣人とはだれですか」という律法学者の問いに、「だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」と良きサマリア人の譬えを話しつつ律法学者に問い返します。律法学者は、「10:27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」と、神を愛し、人を大切にすることは十分に分かっていました。しかし、分かっていたが、「では、わたしの隣人とはだれですか」と問い返していく中で、建前で生きている心が見えてきます。イエスさまは、譬に傷ついた旅人に振り向くことなく置き去りにして去る神殿に仕える祭司、レビ人を出します。彼らは、「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』」ということをよく知っていたはずです。

アッシリア侵攻によって北イスラエルが支配され、アッシリアの混血政策によって、アッシリアから移住してきた人とイスラエルの民が混血し、生まれたのがサマリア人であり、イスラエルの民は彼らを穢れた人として軽蔑していました。そして、軽蔑していたサマリア人が追いはぎに襲われたユダヤ人の隣人になったのです。

新約学者・八木誠一氏も、森補佐司教も、「その人を見て憐れ（口語訳聖書：気の毒）に思い、」という言葉に注目します。

「祭司、レビ人、律法学士たちが失ってしまったものが、このサマリア人にあります。心です。この人を動かしたものはやさしい心です。みじめな状態に置かれている人に対する、素朴で自然な感情です。

『あわれに思って』とイエスはその心を説明します。あわれみとは、みじめな者、弱々しい者、気の毒な状態に対する敏感な感受性ともいえます。いのちのうめき、叫びを聞き取り、それに動かされる心です。自分の前に置かれたみじめな姿に、自分の心がつきさされ、見て見ぬふりができません。痛々しいいのちに対して理屈なしに揺さぶられ、手を差し伸べていかざるをえないのです。彼は、サマリア人、ユダヤ人という区別をこえます」（「神のやさしの中で」 森一弘 女子パウロ会）

私たちは、こうあるべきだとか、本来こうなんだとか、そういう建前でいきっていきますと「わたしの隣人とはだれですか」という筋立てに生き、今ここに傷ついた気の毒な状況、人を見て見ぬふりをしてしまうのです。しかし、イエスさまが「だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったか」と問われたことは、いつも人と関わる限り、煩わしいことは起きてきます。矛盾と不条理なことに満ちていますが、そこを建前でいきるのでなく、煩わしく、矛盾と不条理な中であって、人と関わることを止めない。大切なことは、やさしい心です。みじめな状態に置かれている人に対する、素朴で自然な感情です。イエスはその心を『あわれに思って』と説明します。それを「良きサマリア人」の譬で、サマリア人の行いを通して、私たちに語りかけてくださっています。みじめな者、弱々しい者、気の毒な状態に対する敏感な感受性といのちのうめき、叫びを聞き取り、それに動かされる心、自分の前に置かれたみじめな姿に、自分の心がつきさされ、見て見ぬふりができず、痛々しいいのちに対して理屈なしに揺さぶられ、手を差し伸べていかざるをえない行

動こそが、こうあるべきだとか、本来こうなんだとか、そういう建前を打ち破り、自分自身においては生きず、キリストと隣人とにおいて生き、キリストにおいては信仰によって、隣人においては愛によって生きるのです。キリスト者は信仰によって自分自身を越えて神の中に至り、愛によって生きるのです。「では、わたしの隣人とはだれですか」というイエスさまに問うことなく、自由とされるのです。10:37 律法の専門家は言った。「その人を助けた人です。」そこで、イエスは言われた。『行って、あなたも同じようにしなさい』というみ言葉に応えることは、こうあるべきだとか、本来こうなんだとか、そういう建前から解放され躍りあがって喜ぶ神の恵みとなって私達に与えられています。「行って、あなたも同じようにしなさい」ここで、大切なことは、だから隣人を愛すべきだと建前にならないように、いつも主の十字架、苦しみを共に担う謙遜さも忘れてはいけません。



牧師室の小窓からのぞいてみると

今日は良識府の参議院選挙が始まります。しかし、どれほどの人が良識を持っている候補か分からない。そもそも良識とは何かである。三波春夫さんが、彼の経歴からしても良識を持たれた人であろうが、自民党から参議院全国区の出馬願いを固辞した話がある。これが良識ある判断ということではないだろうか。

参議院も変化し、選挙も変化しました。昨今の選挙は、この良識にかけることばかりである。今、一番、取り戻さなくてはいけないのは良識、自分自身の心ではないかと思います。選挙の度に悪魔が微笑んでいるように思えてなりません。

園長・瞑想？迷走記

夏は、保育者、教諭にとって、学びの時間であるが、社会の変化のなかでも、常に幼稚園も、保育園も開園しておかなくてはならない。その中での研修の時間を持てるように計画するのも園長の仕事であるが、個々の園によって、地域性、経済的状況が違い苦慮するところである。しかし、ここを越えていく勇氣こそが園長の勇氣だと思っている。



日毎の糧

聖書：主よ、わたしの魂はあなたを仰ぎ望み、わたしの神よ、あなたに依り頼みます。 詩編 25：1～2



ルターの言葉から

信仰は大いなるものである。それは詩編が完全に示している。私の信仰は、ぐらぐらして不安定であることを知っている。だが、教会と信仰はわたしたちのものにあり、多くのことを行う。主の祈りと信仰は私たちのもとにあり、多くのことを行う。主の祈りと信仰はサタンに対する強い盾である。私のレニヒェンとヘンスヒェン(ルターの子たち)が私とすべてのキリスト者のために祈ってくれている。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

信頼

旧約聖書は、イスラエルの長い歴史を通して、信仰者はどう生きていくかという事を教えてくれている。25 編は「本編が主に従う道に関する教訓詩であることが見えてくる」(新共同訳 旧約聖書注解Ⅱ 太田道子 日本基督教団出版局)と言っているように、教育的詩編である。

神よ、イスラエルを／すべての苦難から贖ってください。

25：22

詩編の結びである。イスラエル、信仰者、主に従う道を歩む者は、苦難がともなうということである。「全詩篇は、それぞれの詩句が試練、苦難、禍しかなく、試練に満ちた書である(ルターの卓上語録)」しかし、苦難は黄金のわざを学ぶ時、場である。それは、「主よ、わたしの魂はあなたを仰ぎ望み、わたしの神よ、あなたに依り頼みます。」という道へ導き出されると詩編は約束しています。今、苦難にある方、魂を神に向けましょう。神を信頼しましょう。イスラエルの民は苦難を味わい、越えてきました。私たちもその民の一人です。

祈り：神に従う者として、神を仰ぎ望み、信頼して行けますように。

甘木通信

「勇気あること」



ラサール石井さんが、選挙運動の一声に「石井は『日本人ファースト』を掲げる政党や政治家が支持を集めている状況について『何が〈日本人ファースト〉ですか？人間にファーストもセカンドもないんですよ。隣人が自分とは違うってことを認めればいい。なぜなら、あなたも隣の人とは違うから。そして強い者が弱い者を、富める者が貧しい者を助ける。自分のことばかり考えて他人を省みない、そんな国がいい国ですか？』と、持論を展開した。」とあります。勇気ある感動する発言だと私は感じた。

イエスさまは、まさに「人間にファーストもセカンドもないんですよ。」という生き方をなされた方である。

「イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」といわれた。徴税人ザアカイはさげすまれ、差別された人間であった。そのザアカイに話しかけ、家に泊まったのだ。人々はイエスを罪びとの家に泊まったと避難した。「人間にファーストもセカンドもないんですよ。」、「隣人が自分とは違うってことを認めればいい。」というお姿を示されました。

こういう世界が日本に実現することを心から願って、汗をかきたいものである。

(**甘木日記**)土) 松崎保育園へ「キリスト教保育」について話に行く。その後、甘木教会へ。日) 礼拝が終わり、日善幼稚園の報告と運営提案のため久留米に行く。月) 職員の休みもあり、通園バスに乗ったり、事務作業。病院で造影剤CT検査。礼拝、七夕集会に出られず。火) いつものように早朝に。プール遊びの手伝い。水) 激しいスコールのような雷、風と雨。地球温暖化のしるし。職員会議と続く。園長会をまったく忘れていた。木) 早朝、昨日の雨で荒れた庭を整え、一旦、帰宅する。午前中は、松崎保育園に行き、その帰りは、妻は甘木教会で留守番に、わたしは日善幼稚園に分かれて行く。金) 夏休み中の修繕場所の業者に見積もりをいただく。日直、預かりの当番を職員が作っている側にいる。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいますが。



土）今日は、松崎保育園で「キリスト教保育」について、話す日である。ひと電車で向かう。電車も、なかなか来ないタクシーを待っていても東京にいた私が忘れていた都市部と田舎の格差を感じる。参院選の中、政治も大変だと思う。その後、園長先生に甘木へ送っていただく。主日の準備。日）早朝から庭の掃除、教会の前の道路の掃除、赤紫蘇の移植、藤棚の弦の剪定と汗びしょびしょ。休園中の水道など動かさなくて

（ツマグロヒョウモン）はいけないので良い機会。礼拝出席は少ない。午後から久留米で幼稚園の報告、運営について、とくに外部監査にどう応えていくかである。若い先生方がこどもに寄り添っている様子を見て、聖書的、教会的である幼稚園を運営していく努力をしたい。夕刻、職員の休みが分かり、一週間の保育計画を練る。月）朝、一番に幼稚園に来て、掃除、水遣り、草取り。職員に変わり通園バスにも乗る。火）プール遊びが出来る。昼からスコールのような雷、風、雨。止み終わり、屋上のテントを片付けにいこうとするとテントに水が溜まっている。これを職員と流そうとするまともに水を被る。笑いがどっと。こんな時が幸せを感じる。水）暑い中で、園庭開放には10名の方が、入園説明会、来るかなどうかと思っていたら、7家族の方が来られた。この方々にも応えられる保育をしていると思う。今日も、スコールのような雷、風、雨が夕刻起こる。やはり何か変だと思う。幼稚園の職員会議議事録、夏の行事の資料を作っていると21時を越す。園長会を忘れていた。木）早朝に傷ついた園庭を整備しに出かける。妻を起こしてはいけないと黙って出て、妻を怒らせる。老いると何が起こるかもしれないことを反省すべきかな。松崎保育園で聖書のまなび、こども礼拝、午後から妻は甘木教会に留守番に。私は職員が休んでいるので久留米に戻る。日差しは尋常ではない。午前中、卒園生の祖父が作ってくれた遮光ネットのお陰で、また先生がたの配慮、子どもたちは大きなプールに子どもたちは入れた。年長はTシャツを草木染めしている。園児も先生もみんな楽しんでいる。園長は、これが一番に嬉しい。金）今日もプール遊びが出来た。夏と水は、相性が良い。子どもたちは幸せだろう。夏休みの日直、預かりの当番表を作ってくれたり、キャンプの準備をしてくれたり感謝である。お疲れのシェークリームを購入する。一週間、よくここまで働いてくださった。成人式を迎えるインドネシアの青年のために久留米緋のシャツを購入。これが高い。緋は高いようだ。今週も終わり。ホッ。

